

01　石鎚山を描いた壁面装飾



02　居酒屋の玄関建具

形は、その場所と意味から決める。
技術は、それを実現するために選ぶ。

制作事例を2つ、壁面装飾と玄関の建具をご紹介します。どちらも木を中心に、和紙やガラスを組み合わせています。

01	指定の山をモチーフにした壁面装飾（石鎚山） 2026年8月完成　杉・檜・和紙	02
02	居酒屋の玄関建具（組子細工入り） 2024年3月完成　組子細工を強化ガラスで両面から挟んだ戸	10
	つくった人・2027年 ご相談価格の目安・連絡先	16



01

作例集　石鎚山

指定の山をモチーフにした壁面装飾

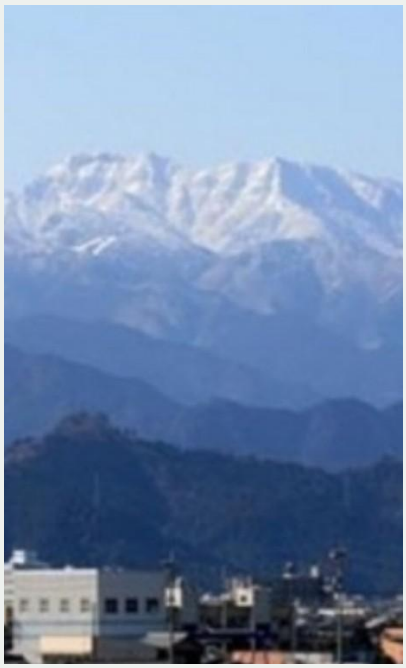
「愛媛県で一番高い山、石鎚山を表現してほしい」

依頼は、この一言でした。どの姿を描くか、どこから見えるか、木でどう表すか。そこから考え始め、約6か月後、杉と檜と和紙の山に仕上げました。

完成	2026年8月（相談開始から約6か月）
寸法	約W3000×H1200×D60mm
素材	杉・檜・和紙
納品	オフィス空間への壁面装飾

候補は山並み。
決めたのは天狗岳。

依頼主本人とは直接話せない案件でした。設計士から受け取った条件を起点に、自分で調べてデザインしました。



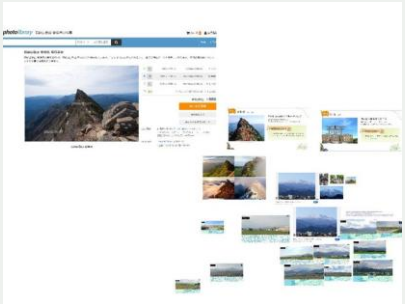
最初の候補。遠くから見た山並み（Web検索の画面から）



尖った天狗岳を中心に据えた（完成品）

小社にとって、実物の風景を描く仕事は初めてでした。作り始める前に、まず依頼の背景と石鎚山の姿を調べました。元請けの背景からは、直接モチーフになる情報は多く得られませんでした。分かったのは、地域に根付き、地域にも貢献している会社だということです。そこで石鎚山を強く抽象化するのはやめ、愛媛の石鎚山だと分かる実在の形に近づけることにしました。

最初の候補は、遠くから見た山並みの景色でした。私はこの姿を格好いいと感じ、その景色が見える場所を3日ほど探しました。それでも、見た人に分かりやすいのは天狗岳の尖った姿です。石鎚山だと分かってもらうことを優先し、天狗岳を中心に据えました。



姿の調査。Webで石鎚山の写真を集め、見える場所と方向を比べた

作る前に歩いて測り、
完成後にも座って確かめた。

設置する部屋へ採寸に行き、入口から一歩ずつ歩いて見え方を確かめました。足元から作品までの高さ、視線、入口からの角度を測り、天狗岳の頂上を置く高さを決めました。



部屋の入口から入るときに見える作品。完成後も、入口から歩き、座り、斜めから見え方を確かめた

設置したのは、社内外の取引先も訪れるオフィス空間の見せ場です。テーブルに座ると、作品は背景として目に入ります。石鎚山を置くことには、地域に根付いていることを示す意味もありました。作品が目立つことより、訪れた人に土地とのつながりが自然に伝わることを考えました。

当初の計画は約W4000×H1800mmでした。部屋の間取りが変わり、約W3000×H1200mmになりました。単純に縮小せず、天狗岳の位置、格子の本数と太さ、見え方を検討し直しています。

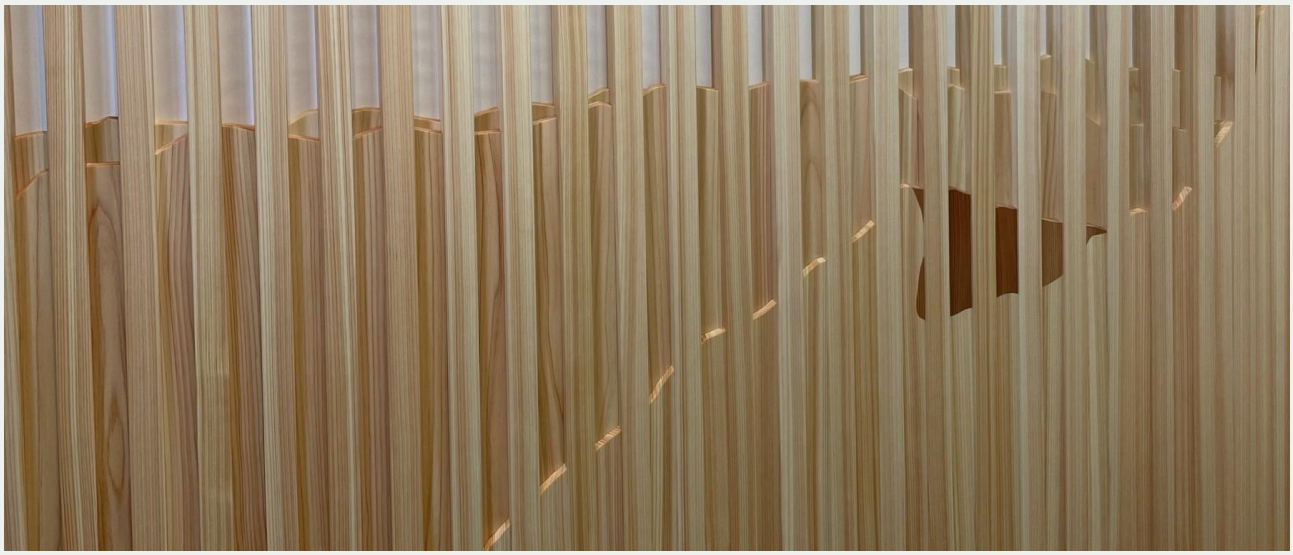


破線　当初の計画
約W4000×H1800mm

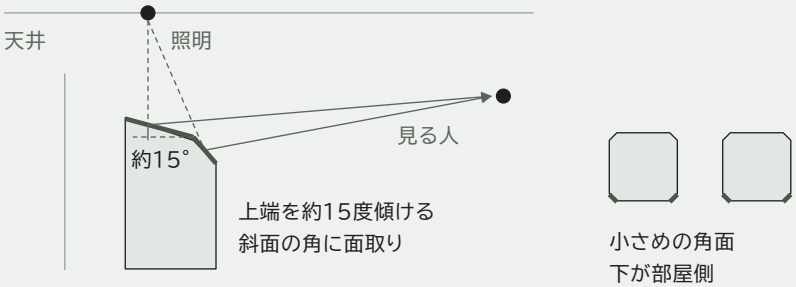
実線　完成
約W3000×H1200mm

稜線の上端を傾けると、輪郭が光る。

山の稜線の上端を、約15度傾けました。天井の照明を見る人の側へ返し、稜線が光って見えるようにするためです。



左斜めから見た完成品。手前の稜線の上端が、照明を受けて光る



稜線の断面

縦格子の断面

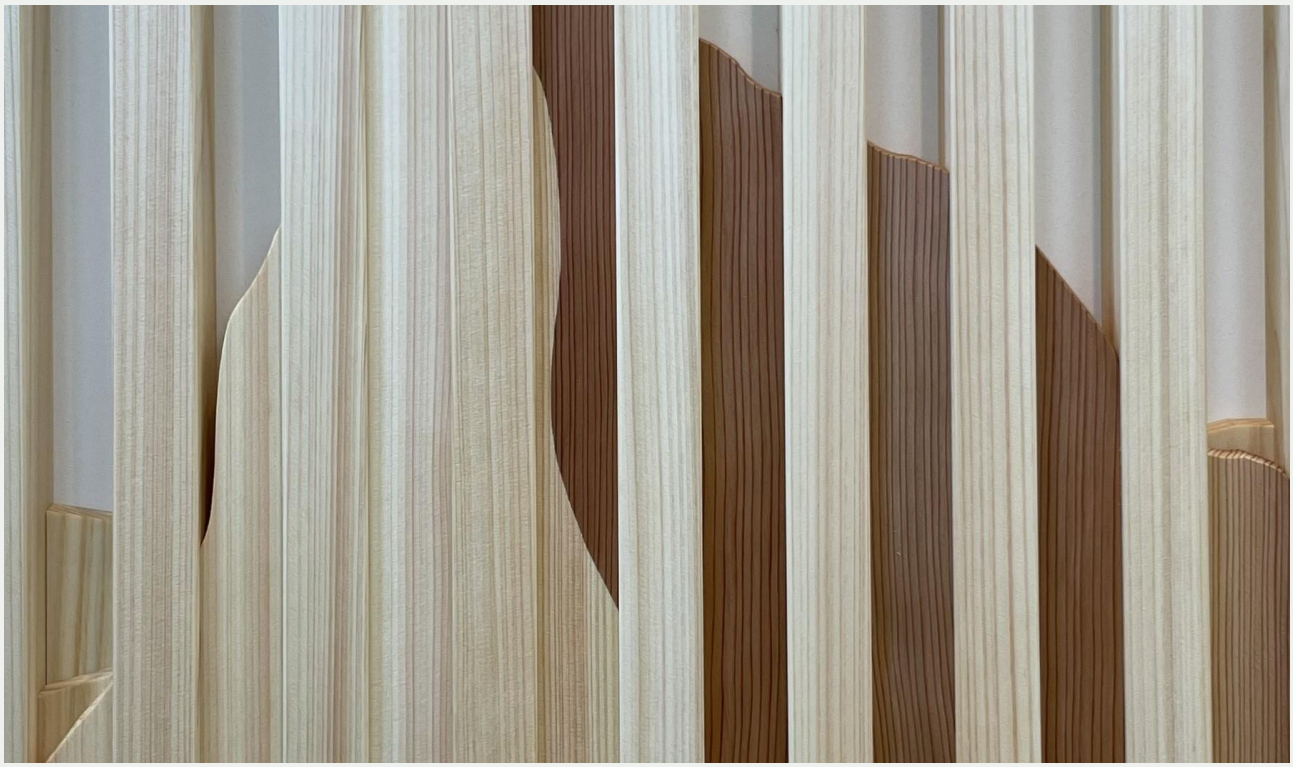
断面の模式図。上端の傾きは約15度、ほかの寸法は誇張しています。濃い線が光って見える部分です。

建具の塵返しに近い考え方です。上端が斜めなら、埃も溜まりにくくなります。完成後、狙いどおり稜線が光って見えました。

斜面には面取りを加え、もう一本細い光の筋が見えるようにしました。縦格子には小さめの角面を取り、強い光ではなく細いハイライトを狙っています。面取りの大きさは、大きさ違いを並べて見比べ、雰囲気を確かめてから決めました。どこまで手間を入れるかは、予算と製作時間を見ながら悩みました。印象を決める稜線と光の部分は、手間を省いていません。

山の明暗を、
木の色で描いた。

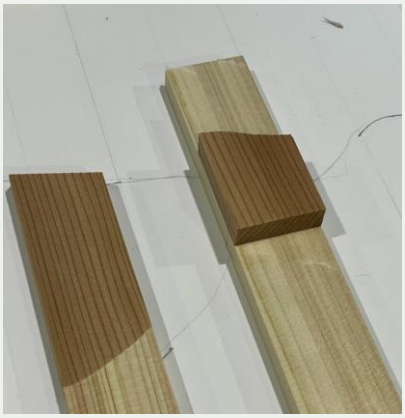
杉と檜の色の差で、光が当たる側と影になる側を表しました。単純な二色分けにせず、全体が自然な明暗に見えるよう、材の配置を決めています。



天狗岳の陰影。影の側に赤みのある杉、光の側に白っぽい檜を置いた

杉と檜の境目は、糸鋸を使った象嵌でつないでいます。木と木を自由な曲線のまま、隙間なくつなぐために選んだ技法です。赤みのある杉と白っぽい檜を象嵌でつなぎ、1本ずつ部材の長さをつくっていきました。色の違う木が曲線でぴったりつながっている所は、特に見てほしい部分です。

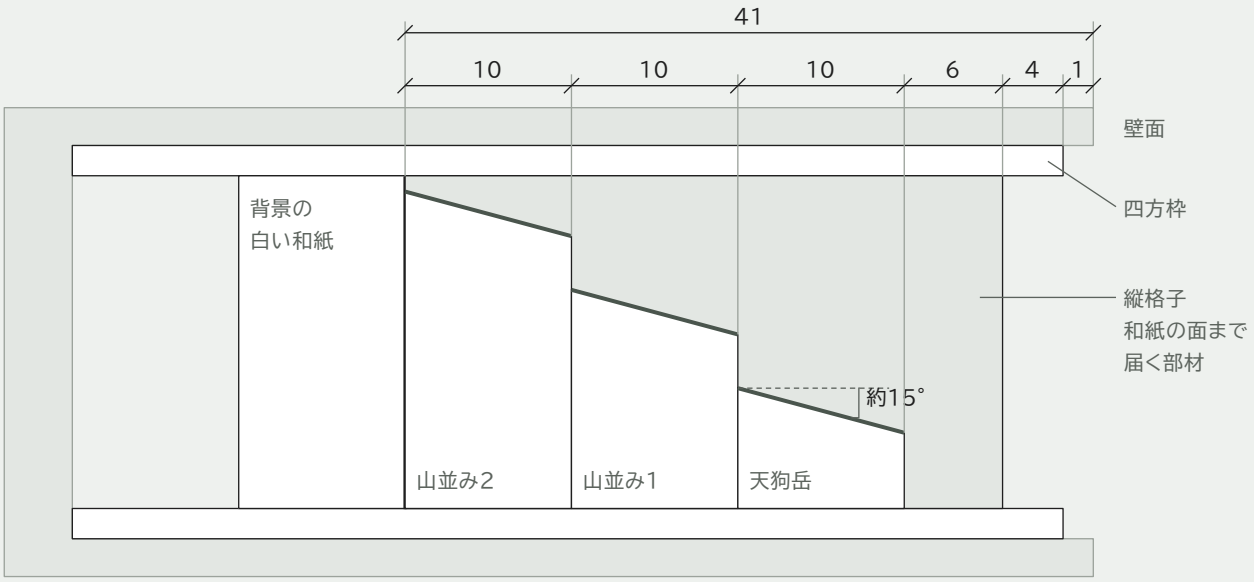
天狗岳と2枚の山並みは、木の板を3層に重ねてつくりました(p.7)。手前の縦格子に山がわずかに隠れることで、山までの距離を感じられるようにしています。



象嵌で杉と檜をつないだ部材。上の赤い部分が杉、下の白っぽい部分が檜

壁から和紙まで41mm。
段差を重ねて、奥行きをつくる。

手前の四方枠から背景の白い和紙まで、面を少しずつ奥へ下げています。縦格子は和紙の面まで届く深い部材で、山の板はその格子の間に入っています。



納まりの断面（横から見た模式図、単位mm。格子の間で切り、奥の縦格子を灰色で示す。段差と板の厚みは模式）

全体は、壁面から1mm奥に納めました。設置する壁は場所によって厚みがわずかに違い、ツライチを狙うと一部が壁より出っ張るおそれがありました。人が触れる場所で柔らかい檜が出っ張ると、凹みや傷になりやすくなります。そこで各所の厚みを測り、四方枠の最前面を壁から1mm奥に決めました。縦格子をさらに4mm下げた面落ちにも、檜が当たって凹むのを防ぐ狙いがあります。

格子の表面から天狗岳までは6mmと、ほかの段より浅くしました。深すぎると、斜めから見たときに天狗岳が格子に隠れすぎるためです。

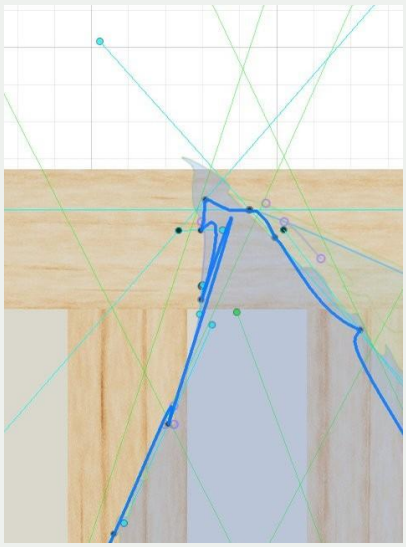
背景には壁紙をそのまま透かさず、白い和紙を張りました。山の上が空として見えるようにするためです。板に和紙を張る方法は、障子張りではなく襖に近い技術でした。襖施工の経験がある父に張り方を教わってから張りました。



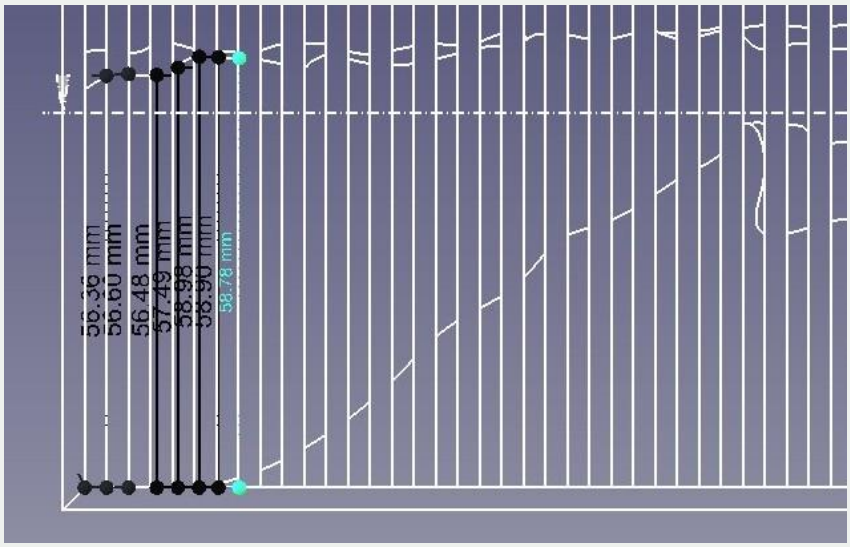
上から見下ろした縦格子。部材は和紙の面まで奥行きがある

使えるCADがなければ、探して覚える。

縦格子の太さと本数、全体の見え方は、CGで比べて決めました。
そのうえで、3Dから実物大の寸法を拾い出そうとしました。



苦戦していた頃の画面。下絵の上で天狗岳の輪郭をなぞった



寸法が出るようになった画面。縦格子ごとの寸法（56.36～58.78mm）を拾えている

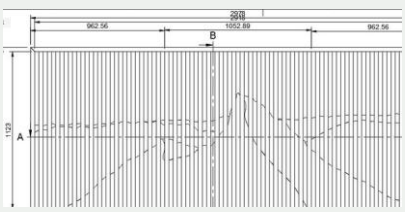
普段使っている2種のCADでは、3Dから実物大の寸法を拾えませんでした。目的を果たせそうなCADを探して新たに2種を試し、2つ目で必要な計測と実寸化ができました。短い期間で調べて覚えられたのは、私がITや様々なソフトウェアに慣れていたからです。

CGは見え方を確かめるため、CADは実物大の寸法を拾うために使っています。CGでは格子の太さと本数を変えては見比べ、納得してから製作に入りました。

縦格子は、小社が本業で培ってきた建具の技術で作っています。縦格子ごとの寸法を拾うために、新しいCADを覚えました。1本の縦格子に、建具の技術とCADの両方が入っています。象嵌のあと幅を一定にそろえる工程など、未経験の加工は、何度も試験してから本製作に入りました。



CGによる提案（写っているのはすべてCG）。格子の太さと本数を増減して見比べ、この案に収めた



実寸化できた図面（正面）

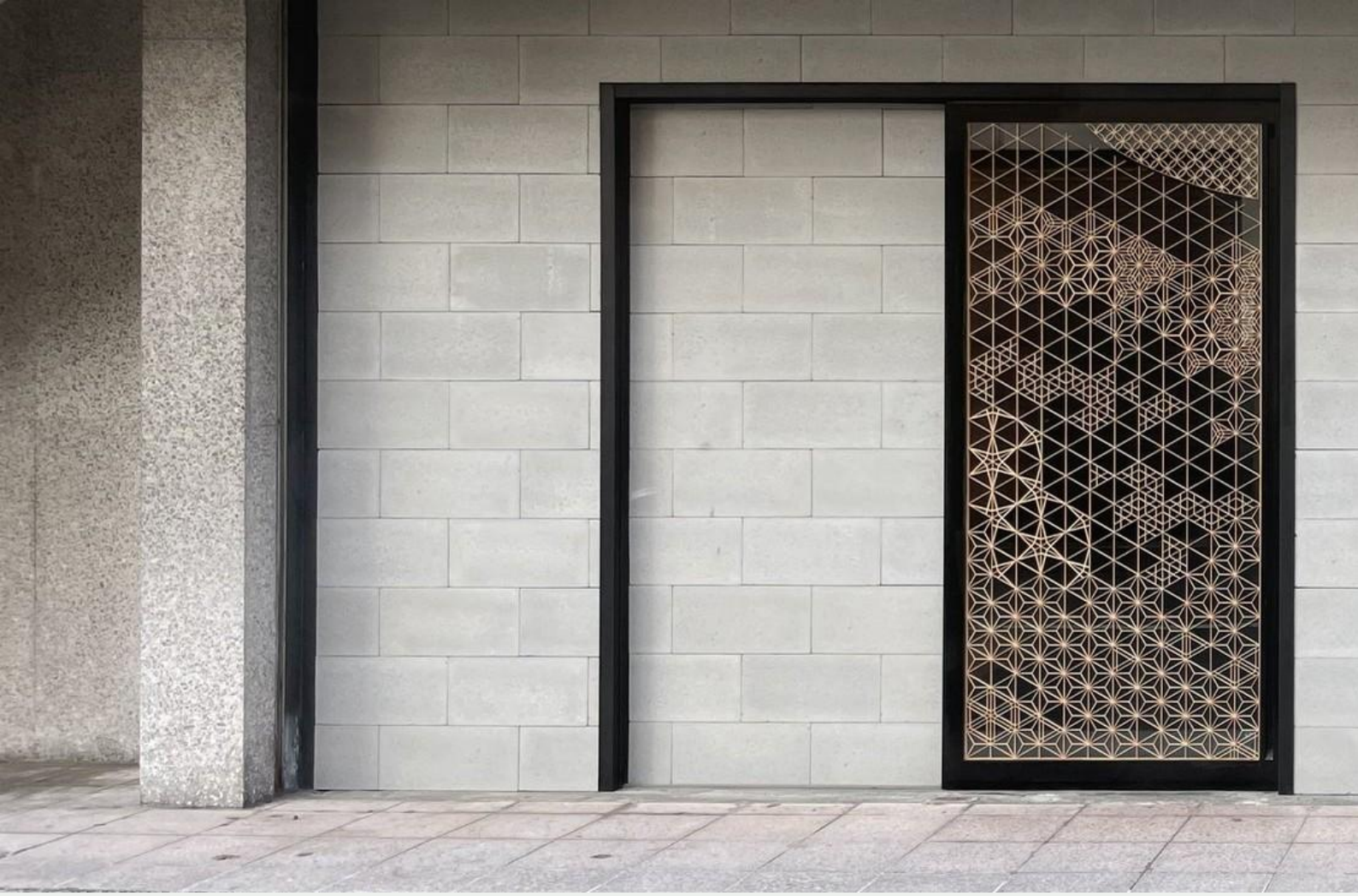
テーマ一つから考える仕事を、もっと増やしたい。

納品のとき、設計士から「いいですね。かっこいいですね」、「テーマから膨らませて形にできる職人がいるとありがたい。今後もお願いしたい」という言葉をいただきました。



斜めから見た完成品。手前の縦格子越しに、奥の天狗岳が見える

私にとってこの案件は、建具を一枚作る仕事とは違いました。CAD、建具、和紙、象嵌、木材の仕上げまで、持っている知識と技術を総動員できたことが、特に面白かったです。この仕事をきっかけに、こういう仕事をもっとやりたいと考えるようになりました。



02

作例集　居酒屋の玄関

居酒屋の玄関建具（組子細工入り）

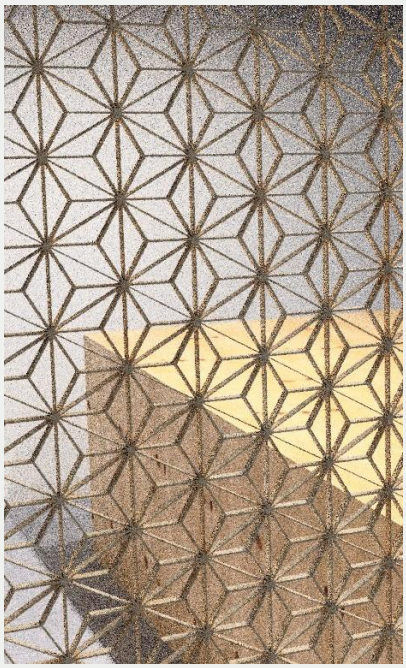
地元の海と、みかんの山を、玄関の組子に。

店主から、県外（東京）の老舗で修業する中で、地元・八幡浜の魚介や柑橘のおいしさを改めて感じ、それを多くの人に味わってほしいという思いを聞きました。その思いを、八幡浜湾と湾を囲むみかんの山々、日光に照らされた海面、人のご縁がつながる七宝として、玄関の組子に表しました。

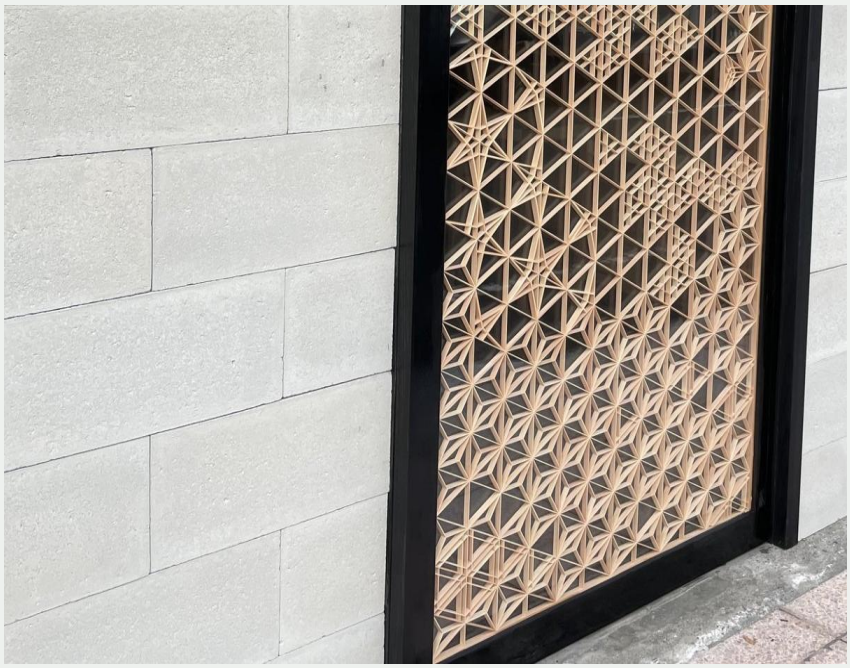
完成	2024年3月
仕様	組子細工を、透明の強化ガラスで両面から挟んだ玄関の戸
場所	居酒屋の玄関（今ある戸から作り替え）

最初の案は、全面の麻の葉だった。描き直して、七宝を加えた。

取り替える前の玄関で寸法を測り、最初の案をCGで描きました。戸の全面を麻の葉模様で埋める案です。道から見た姿、正面、床に落ちる影まで、CGで確かめています。



最初の案（CG）。全面を麻の葉模様で埋めた戸



完成した戸（下半分）。昼、同じく左斜めから見た姿

私は最初の案も悪くないと思っていました。けれども、店の内装の雰囲気が見えてきたとき、「これよりこっちの方がいい」と思う形が浮かびました。幸い、まだ切り替えが間に合う、ぎりぎりの時期でした。

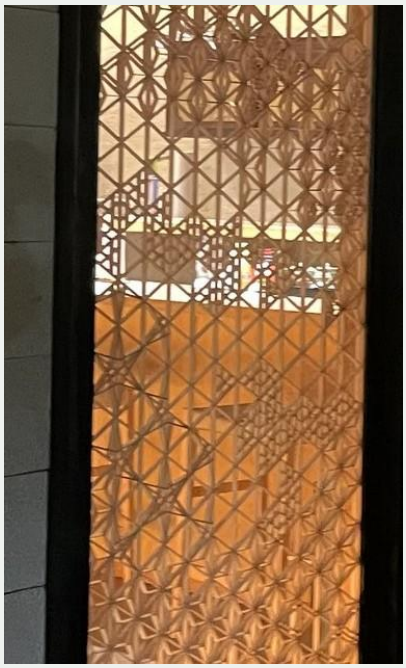
麻の葉だけで埋める案をやめ、七宝と正三角形の地組を組み合わせた今の形にしました。七宝は、人のご縁がつながっていく柄です。「人がたくさん来る居酒屋になれば」という願いを込めています。



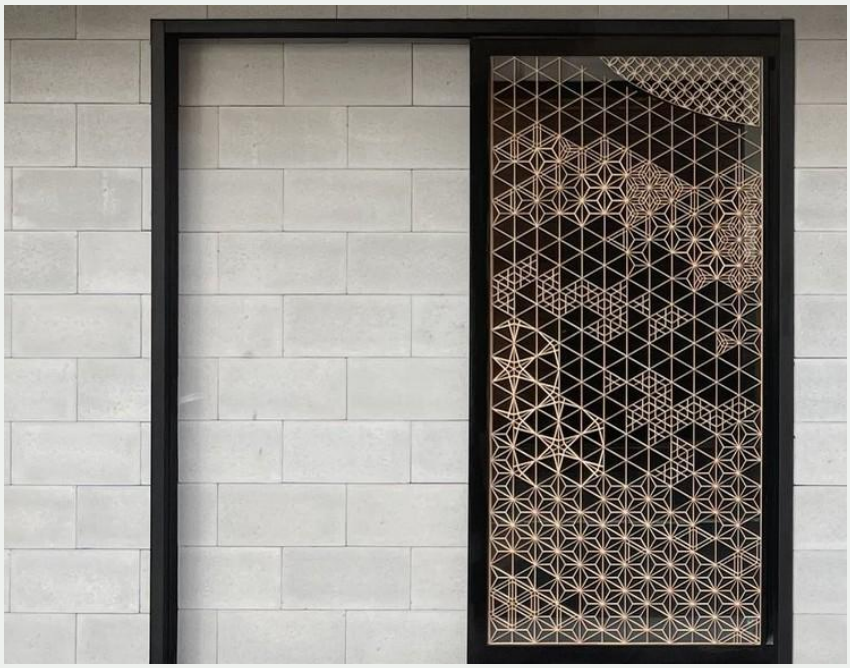
取り替える前の玄関。格子にガラスの入った板戸

昼は木が映え、
夜は中がほどよく見える。

玄関の戸は、店の外と中の境目にあり、道路の向こう側からも見えます。昼と夜に通りからどう見えるかは、この場所から考えて決めました。



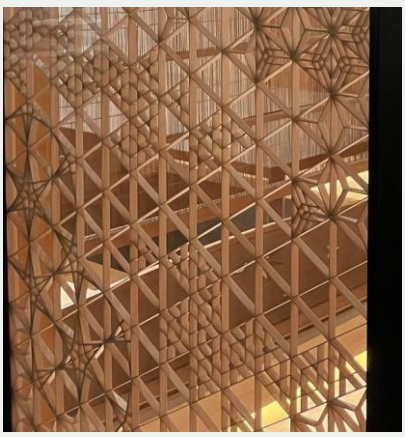
夜の姿。店の明かりが組子を通って外へ出る



日中の正面。店の中が暗いので、木の白い色が映える

昼と夜で、戸の見え方は逆になります。昼は店の中が暗く、組子は黒い背景の前に立ちます。夜は店の中が明るくなり、組子は明かりの前に立ちます。

通りを歩く人にも、店の中の人にも見える場所なので、道から見た姿はCGでも確かめました。完成後、このドアを見て入店する人も多いと聞いています。



夜の営業時間。組子越しに、店の中が適度に見える

夜は、足元に
組子の影が落ちる。

店の明かりが組子を通って外へ出ると、戸の前の床に柄の影が落ちます。影が出ることには、最初の案のCGの段階で気づいていました。けれども、実物の影はCGよりもっと美しいものでした。



床に組子の柄が落とした影。麻の葉と正三角形が並ぶ

店内側から寄って見ると、一枚の戸の中で柄が切り替わります。上には七宝があり、その下に正三角形の地組と麻の葉が並びます（右の写真）。柄の密度が場所で違うので、床の影にも詰まった所と開いた所ができます。

柄の配置は、組む途中で全体を立てて眺め、変えることもあります（p.14）。



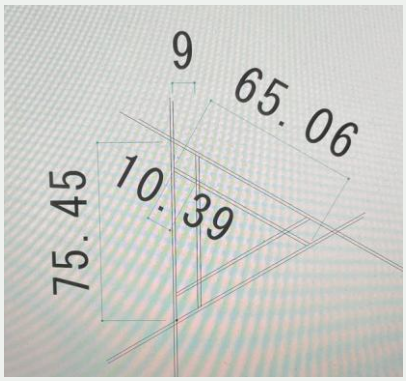
店内側から寄って見た組子。七宝、正三角形の地組、麻の葉



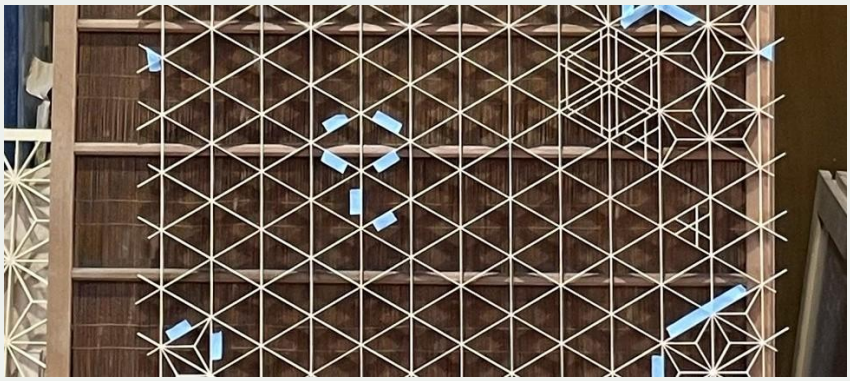
最初の案のCG。床に落ちる麻の葉の影を確かめた

柄の寸法はCADで出し、全体は立てて確かめる。

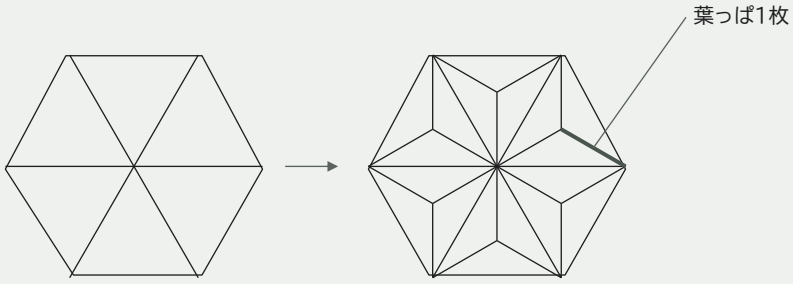
組子の柄は、CAD上で寸法を算出しました。機械と治具で部材を加工し、正三角形の地組に葉っぱを入れて麻の葉をつくります。



CAD上で柄の寸法を算出した画面

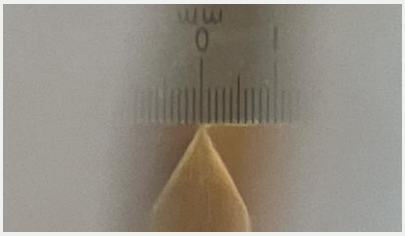


全体像の途中確認。ここから配置を変えることもある



正三角形の地組　　葉っぱを入れた麻の葉

模式図。正三角形の地組に、頂点から中心へ葉っぱを入れると麻の葉になる。濃い線が葉っぱ1枚。寸法は模式



部材の先がどれだけ尖っているかを計る



曲線で切断した七宝

地組の接着には、そくい（炊き立てのご飯をすりつぶして作る糊）を自分で作って使いました。白ボンドなどと使い分けますが、組子にはそくいがよいと考えています。

葉っぱは、機械に治具をセットして加工し、部材の先の尖り具合を目盛りで確かめました。七宝は、組んだものを曲線で切りました。曲線を入れて、柔らかい雰囲気にしたかったからです。

組子とガラスを入れ替えられるように、上桟を丸ごと外せる戸にした。

上桟は鎌ホゾで納め、丸ごと外せるようにしました。組子とガラスの厚みに合わせて考えた納まりです。鎌ホゾは、治具を使って加工しています。



鎌ホゾの木口。この形で、上桟を丸ごと外せる



鎌ホゾの治具

この戸は、組子の両面を透明の強化ガラスで挟み、合わせて入れる形にしたいと考えました。ところが、組子とガラスを合わせると厚みが20mmになり、そのままでは建具のホゾを作る幅がなくなります。

そこで、その幅を抜き差しできる構造にする代わりに、上桟を丸ごと外せるようにしました。そのためには、木口に深く斜めの穴を掘る必要があります。手間はかかりますが、強度を保ったまま組子とガラスをきれいに納め、あとから入れ替えられるようにするには、この形が必要だと判断しました。

ご相談価格の目安は、作例集の最後のページにまとめています。

この2つをつくった私が、ご相談を受けます。



つくった人　代表・三代目

藤田 晴樹

1993年生まれ。高専で電子制御を学び、群馬県の建具店で5年4か月修業。2019年に藤田建具店に入社。人となりは資料「藤田晴樹」に。

2027年 ご相談価格の目安

図面・仕様が決まっている	特注の木製建具・作り替え 40万円〜
テーマやヒアリングから意匠を考える	テーマとヒアリングから作る空間装飾 （壁面・ガラス面・間仕切りなど）・デザイン建具 60万円〜
規模・設計密度が大きい事例	石鎚山と同等の規模・仕様 112万円〜

すべて税別・出張費別途。寸法、材料、設計範囲、現場条件により個別見積もり。40万円〜は既製寸法に近いものの場合で、1案件の最低目安です。仕事の流れは、資料「業務内容」にあります。

初回のオンライン相談は、30〜60分無料です。

藤田建具店　〒799-3441 愛媛県大洲市長浜町下須戒14-1
電話　0893-52-1078　受付 8:30〜17:00（日曜、第2・第4土曜は休み）
メール　door.fujita@gmail.com
フォーム　door-fujita.com（24時間受付）

制作事例を見る　Instagram @door_fujita